通鏡ハのさてハよりなる故寛く成る事を成山と人ハ心からなん
守れ給ひし
其時筑後当法明ハ残る悪鬼をさしつめんと仰られけり
まつちまあらしをさてつりかり（当る櫃上を小判出稲荷）今上再拝しけりや
ゆくゆく親方神子孫老根の大権現掃部月出る当り
の神相撲てハイヤ白髪老人の明神但馬国に入ては
そも円縁さんきよ（スツヘリバツタリ）ならずの明神といひし檜めのけん
さんなり加賀白山疾明の明神後車を愛まくかと
しまた河内は実方なりけんの明神豊後国ではかかる
梅枝すんしも何まんでも老給ひし知らしたれ（ミヤヂン）尤や宮本の明神まて
銭親ま二代の名誉の金鶏の明神周のかゝ之への宝既なるとかや
同く宮寿ハ御用の明神まつり長門ま勝成なくりの市寵把神
大和国まハ枕をうけぬ久世の明神もやとど隠気の御神也
伊賀まハし切当宿の明神国僻八段盗物明神（イヤツテンヨチイ）まても此
御神と申すほうねむつていもいとしいもさゝし候し
いろいろとわしとのとがめ老まで御神まてつんさせけん
くしハすつきりき加茂雑子の化粧ん人傭喝をけなるして
国家太平なるし給へんとかりま何うも老出たまふかし
まの御神老あり物る日本六拾余州大小譜代の御る

なる者は價増の悪鬼を八増の外へ追拂たまはゞ誠にか
んなんとしたる形なり

續く代の手と勢を松の若緑限りの附りとなるを以て利
勘定衆粟津の原の近江にくし若狭屋濱の欲の身の上

假寢の夢

古語に曰驕者久しからすとは誠に有る哉當代に頭勘略功
者とて世の沙汰の何れもなれは爲たとへ其身も勘
定頭の座上とある其身の事を忘れ世を勝手次第役人作りまん
なれしたる事なれは甚しく不淺ひやうし上へ加増を
とりたる上のかんてうの上の種すれかしてれ極く高
役人程にてかくしの有る事　公儀も萬端首尾なく
勘略筆の類ひをはなきを賣る草木もなりて利御用達
の町人共問屋は市をなし錢包取ひの商人者金銀を山と
つみ諸国の珍器名物を席に餘りつゝつゝ並べ我もと
羅紗今度此なる緋衣一生若樂の娯とかこつすとのんて
並ひ居る欲には從ふ人々に錦を多く商人の入札など
をは世間に後は物との稀にして新に汁をあふたも不は
日々の事なるは金銀も減りなし血のなみたを流し